授業づくり研修講座レポート

立野台小学校４年生担任

宮内　大佑

教材「気になる場所を紹介しよう」三省堂

ポイント

①自分の紹介したい場所の気になるポイントについて、伝わるように具体例を挙げて書く。

②読み手に分かりやすく伝えるために、その場所がより詳しくする言葉（比喩表現、オノマトペ等）を用いる。

③分からない言葉について国語辞典を積極的に活用する。

④文章を読む際に補足となる資料の提示（写真、絵、グラフ等）をする。

①自分の身の回りについて、自然が多くて居心地の良い場所、昔からよく行っていた思い出のある公園、夜になると気味が悪い場所等について具体例を挙げて書かせた。気味の悪い場所や通学路などが多く選ばれると想定していたが、こっちの想像とは違い児童の多くが思い出のある場所を選んだ。

②４年生ではこれまで、詩の学習などを通して、比喩表現やオノマトペについて学んできた。それらを生かすことでより読み手に伝わりやすい文章を書かせることを目指した。においや、見えたものについて、～のようなにおい、～のように見える等はしばしば用いられたが、オノマトペは選んだ場所と理由によっては使いづらかったようで、ほとんど用いられることはなかった。

③知らない言葉を獲得するために辞書を活用させた。新しく知った言葉のページには付箋を貼るようにさせると、児童は積極的に辞書を活用し、新しい言葉を用いるようになった。

④文で表すだけでなく、より読みやすくなるように写真や絵、グラフも取り入れるように促した。児童によってはあまり有効的な資料を提示できなかったが、その公園の写真など、その場所を知らない人でも分かるような資料を提示できた児童が多かった。

課題

新しい言葉を獲得して、それらの言葉を状況に合わせて使えるようになってきた。しかし、まだ新しく知った言葉を使いたいというだけで間違えた使い方をしてしまうことも多かった。様々な場面について作文を書いていく必要があるように感じた。また、どの場面でどのような資料を用いれば効果的なのかについては他教科と合わせて指導していく必要があるように感じた。